

オンライン授業アンケートの実施と、 その結果から見る本学の オンライン授業について

高瀬 雄一郎*、外間エックスタイン絵海**

Surveys and Analysis on Online Lessons at Kanda University of International Studies

TAKASE Yuichiro, HOKAMA Eckstein Emi

Abstract:

In the fiscal year 2020, when novel coronavirus infections spread globally, all classes were conducted online for the first time since the establishment of Kanda University of International Studies. In order to find out the best way to provide necessary support and make improvements, “Surveys on Online Classes” for students and faculty were carried out throughout the year.

This report will present an overview of the implementation and results of the survey, as well as discuss how the university’s online classes were conducted in FY2020, and how they were evaluated by both students and faculty.

In addition, we will also explain how the surveys led to the development of later FD activities.

キーワード： オンライン授業、 アンケートを活用した授業改善、 FD、
IR、 教職協働

1. アンケート実施概要

本アンケートは、学生・教員それぞれを対象にそれぞれ6回ずつ実施された。初めにその実施概要を以下に示す。

* 神田外語大学 学長室 チーフ

** 神田外語大学 学長室 アシスタントチーフ

表1 学生向けアンケート実施概要

	前期			後期		
	第1週	第5週	第10週	第3週	第10週	終了時
対象	外国語学部全学生					
実施期間	5/3(日) ~6(水)	5/30(土) ~6/3(水)	7/5(日) ~12(日)	10/2(金) ~11(月)	11/20(金) ~30(月)	2/1(月) ~7(日)
実施方法	Google フォーム					
告知方法	CampusWeb(学内ポータルサイト)に アンケートフォームへのリンクを掲載					
回答者数	584	977	492	371	245	364
回答率	14.4%	24.1%	12.1%	9.1%	6.0%	9.1%

表2 教員向けアンケート実施概要

	前期			後期		
	第3週	第10週	終了時	第3週	第10週	終了時
対象	神田外語大学専任教員・非常勤教員 (ELIとSALCの教員は、前期は同様の独自アンケートを実施していた ため対象外とした)					
実施期間	5/16(土) ~26(水)	7/4(土) ~27(月)	8/22(木) ~30(金)	10/2(金) ~11(月)	11/20(金) ~30(月)	2/1(月) ~7(日)
実施方法	Google フォーム					
告知方法	教員向けメーリングリスト					
回答者数	217	193	115	131	87	145
回答率	85.1%	75.7%	60.1%	36.2%	24.0%	40.6%

2. 本アンケートの目的

2.1. アンケートの立ち上げと継続実施決定の経緯

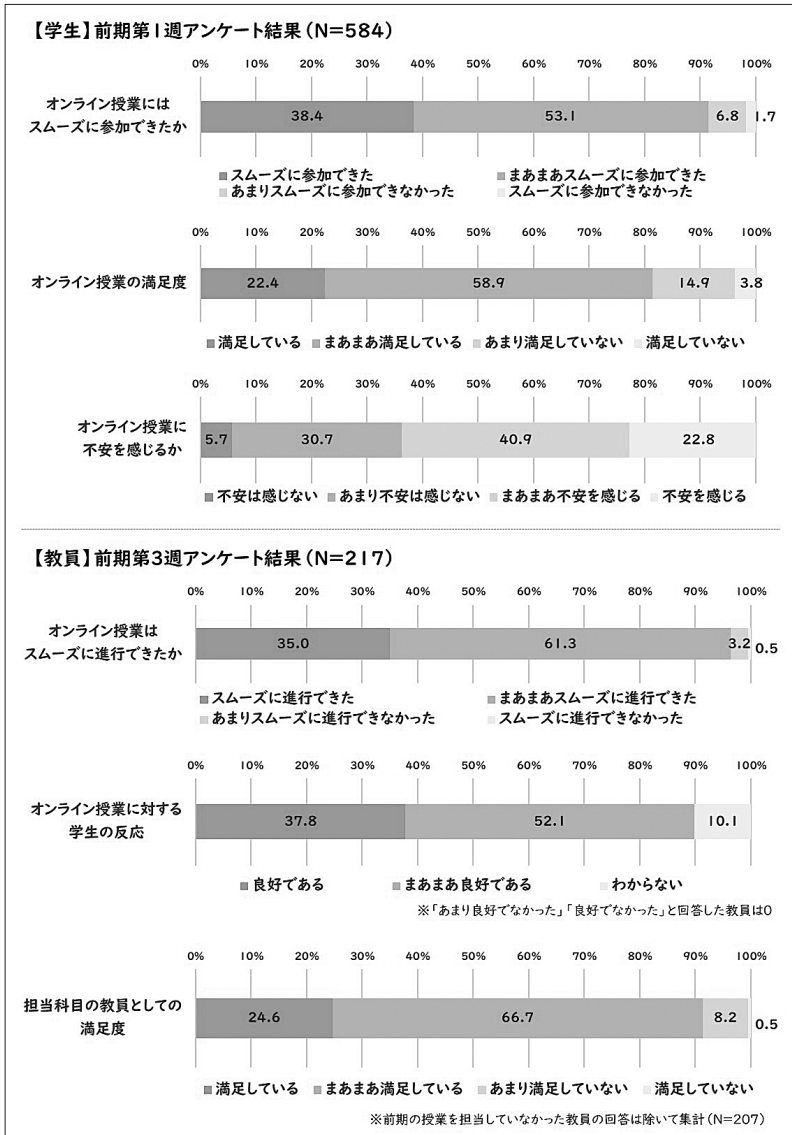
2020年3月、新型コロナウイルスの感染が日本国内でも広がり、全国の

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について
大学が2020年度授業をオンラインで実施すると発表し始めた折、本学でも
連日協議を重ねた結果、全ての授業をオンラインで開講することが決定さ
れた。

この決定をうけて、Innovation KUIS では教員・学生それぞれに対してレ
クチャー・トレーニングの機会・トラブル対応の窓口を提供し、できる限
りの準備を整えた。しかし、全学生・教員が全ての授業をキャンパス外か
らオンラインで実施・参加するというのは開学以来初めてのことであった
ため、想定外のトラブルが起こることも予想された。そこで、まずは学生
についてオンライン授業の実施状況や反応を把握し、必要なサポートを洗
い出すため、授業開始から1週間がたった時点でアンケートを実施した。
それに続き、教員に対しても必要なサポートを把握するため、第3週授業
終了時にアンケートを行った。

これらのアンケート結果はおおむね「授業はスムーズに参加・進行でき
た」「満足度は高い」と読み取れるものであった。しかし一方で、学生アン
ケートで今後のオンライン授業に「不安を感じる」「まあまあ不安を感じ
る」と回答した学生も60%以上いたことから、オンライン授業であっても
全学的に教育の質を維持・向上していくために継続した調査を実施するこ
ととなり、それが本アンケートのその後の主目的となった。

図1 前期第1週(学生)・前期第3週(教員)アンケート結果抜粋



オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

2.2. 状況に応じたアンケートの活用

その後、新型コロナウイルスの感染拡大状況や、それに対する社会の受け止め方、大学に対する意見、学生の状況などは刻々と変化し、本学でもそれに応じて、キャンパスの入構制限の段階的な緩和、ハイフレックス型授業の導入、学生の経済支援と教員の授業サポートを目的とした「SA (Student Assistant) 制度」の導入など、ルールの変更や新たな取り組みが行われた。加えて、次期や次年度の授業形態の検討も常に行われていた。

また、オンライン授業であっても大学全体で継続的に教育の質を維持・

図2 本学の状況とアンケートの目的の変遷

本学の状況	キャンパス入構制限の段階的な緩和					
	後期の授業形態検討			次年度の授業形態検討		
	▼ 全面オンライン授業開始		▼ 一部科目におけるハイフレックス授業開始			
	▼ SA制度導入					
	前期第1週	前期第5週	前期第10週	後期第3週	後期第10週	後期終了時
学生	教育の質の維持・向上のための参考情報収集					
	オンライン授業の状況・学生の反応・必要なサポートの把握 「不安」な学生6割		後期の授業形態に対する意見収集	学内施設の利用状況把握 ハイフレックス授業に対する意見・満足度の把握	次年度の授業形態に対する意見収集	次年度新入生のオンライン授業サポートの参考情報収集
	前期第3週	前期第10週	前期終了時	後期第3週	後期第10週	後期終了時
教員	教育の質の維持・向上のための参考情報収集					
	オンライン授業の状況・学生の反応・必要なサポートの把握		後期に向けて必要なサポートの把握 SAに希望するサポートの把握 Good Practiceの収集		次年度の授業形態に対する意見収集 ハイフレックス授業の状況・必要な支援・Good Practiceの把握	次年度に向けて必要なサポートの把握 SAに希望するサポートの把握 Good Practiceの収集

向上するため、Good Practice の共有などのFD活動も求められた。

本アンケートは年度を通じて継続的に実施されていたことから、これらの検討や導入後の状況確認・課題の把握、情報収集などにおいて活用され、その時々で必要な質問が盛り込まれた。

3. 主な質問項目

本章では、本アンケートの主な質問項目を、前章で記載したアンケートの目的ごとに示す。

3.1. 教育の質の維持・向上のための継続調査項目

表3 教育の質の維持・向上のための継続調査項目(学生アンケート)

	前期			後期		
	第1週	第5週	第10週	第3週	第10週	終了時
スムーズに参加できたか	○	○	○	○	○	○
オンラインツール使用のスムーズさ	○	○	○	○	○	○
インターネット接続状況	○	○	○	○	○	○
授業の全体的な満足度	○	○	○	○	○	○
満足度のばらつき		○	○		○	
授業の量(内容・課題)の多さ		○	○	○	○	○
授業の量(内容・課題)のばらつき		○	○		○	
授業に関する意見や考え(自由記述)		○	○		○	○
知識・スキル・考え方などの習得度			○		○	○
習得度のばらつき			○		○	

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

	前期			後期		
	第1週	第5週	第10週	第3週	第10週	終了時
試験や成績についての不安			○	○	○	
授業の改善度			○	○	○	
授業ごとの改善度のばらつき			○		○	

表4 教育の質の維持・向上のための継続調査項目(教員アンケート)

	前期			後期		
	第3週	第10週	終了時	第3週	第10週	終了時
スムーズに進行できたか	○	○		○	○	
インターネット接続状況	○	○		○	○	
学生の反応の良好さ	○	○		○	○	
教員としての授業満足度	○	○	○	○	○	○
改善度合い	○	○		○	○	
授業に関する意見や考え(自由記述)		○	○		○	○
学生の学習習熟度		○	○		○	○
成績判定についての不安		○			○	
科目の目標の達成度			○			○

3.2. 状況に応じた質問項目

表5 状況に応じた質問項目(学生アンケート)

	前期			後期		
	第1週	第5週	第10週	第3週	第10週	終了時
理想の授業形態			○		○	
学内施設の利用状況				○		
ハイフレックス授業を対面・オンラインどちらで受講したいかとその理由				○	○	
ハイフレックス授業の満足度					○	
次年度の新生がオンライン授業をスムーズに受けられるためのサポートのアイデア						○

表6 状況に応じた質問項目(教員アンケート)

	前期			後期		
	第3週	第10週	終了時	第3週	第10週	終了時
ハイフレックス授業関連						
スムーズに進行できたか				○	○	
学生の反応				○	○	
Good Practice・改善点				○	○	
必要なサポート				○	○	
学生の習熟度					○	
教員としての授業満足度					○	

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

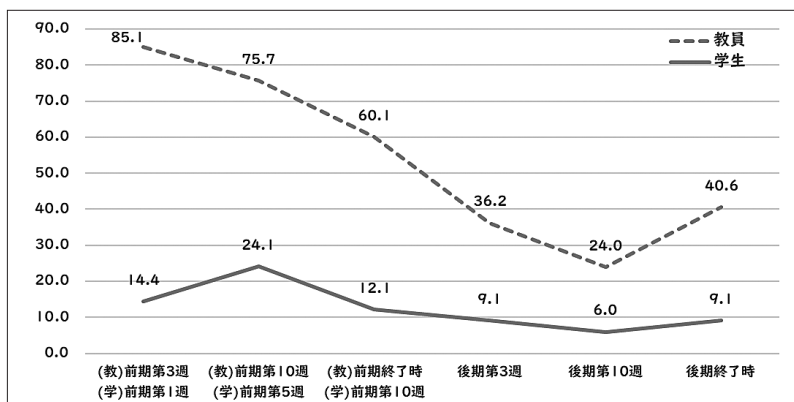
	前期			後期		
	第3週	第10週	終了時	第3週	第10週	終了時
その他						
翌年度の理想の授業形態				○		
次期に向けて必要なサポート			○			○
SAに希望するサポート			○			○
担当授業における Good Practice			○			○

4. 回答率の推移

本アンケートは、学生・教員いずれも年間で6回実施された。このことは、「教育の質の継続的な維持・向上」という本アンケートの目的のためには必要であったが、一方で回答率の低下が1つの課題となっていた。

図3は、1章のアンケート実施概要内で示した学生・教員それぞれの回答率の推移をグラフにまとめたものである。学生は前期第5週に24.1%、

図3 アンケート回答率の推移



教員は前期第3週に85.1%の回答率を得ていたが、いずれもその後徐々に下がり、後期第10週には学生6.0%・教員24.0%まで低下した。

前期のオンライン授業開始当初は、学生・教員ともに手探りの状態であり、自身の状況を伝えること、受講する学生がどのように感じているかを把握すること、それによりオンライン授業が改善されること、自身にとって有益なフィードバックを得られることに対するモチベーションが高かったと考えられる。しかし、徐々に授業が安定して運営されるようになっていくに従い、そのモチベーションは下がり、アンケートに対する関心も薄れていったことが推察される。

また、前章で示した通り、本アンケートの質問項目は各回共通のものが多く、回答者に何度も同様のアンケートを依頼している印象を与えていたことも想定される。

加えて学生においては、本アンケートを含めたアンケートの数の多さも原因として考えられる。図4は、2020年度に全学生を対象として実施されたアンケートのスケジュールをまとめたものである。本学ではもとも、学生が各期に受講した授業それぞれについて評価を行う「授業評価アンケート」、大学が学生の学習・生活実態などを把握するための「学生アンケート」、大学がTHE (Times Higher Education) 世界大学ランキング(日本版)にエントリーするための「学生調査」といった全学生を対象としたアンケートが複数実施されており、それらは2020年度も継続された。そこに、全6回の「オンライン授業アンケート」が加わったことにより、2020年度は年間を通じてほぼ隙間なく何らかの学生アンケートが行われており、特に後期の9月から11月は複数のアンケート実施が重なっていたことが分か

図4 2020年度に実施された全学生対象のアンケート

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
オンライン授業アンケート	↔	↔	↔			↔	↔			↔
授業評価アンケート			↔						↔	
学生アンケート					↔	↔	↔			
THE世界大学ランキング(日本版)学生調査					↔	↔				

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について
る。

これらのアンケートが、学生に対してそれぞれ回答協力依頼の周知を行っていたことから、学生にはそれぞれの違いが分からなくなっていたり、アンケートへの回答疲れといったことが起こっていたと考えられる。

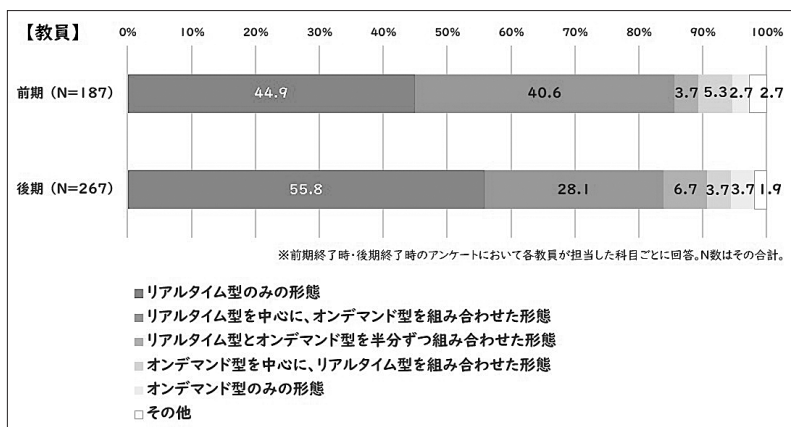
5. アンケート結果から見る本学の2020年度オンライン授業

ここまで、本アンケートの目的・内容・実施に関する面を紹介してきた。本章では、その結果をもとに、2020年度の本学のオンライン授業がどのように実施され、学生・教員それぞれにどのように評価されていたかを見ていく。

5.1. オンライン授業の実施形態

図5は、前期終了時・後期終了時の教員アンケートにおいて、各教員が自身の担当した科目それぞれについてオンライン授業の形態を回答したものである。前期・後期とも「リアルタイム型のみ形態」と「リアルタイム型を中心に、オンデマンド型を組み合わせた形態」の合計が約85%となっており、本学の2020年度のオンライン授業はリアルタイム型を中心に

図5 オンライン授業の実施形態



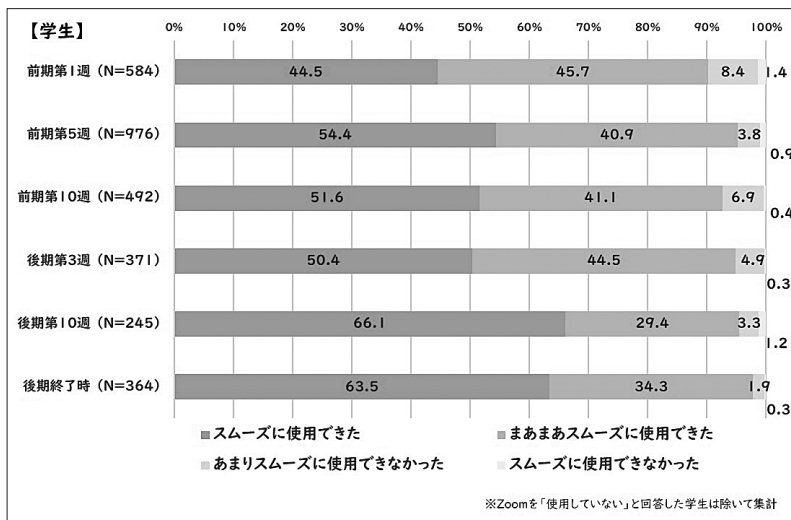
行われていたことが分かる。また、「リアルタイム型のみの形態」と回答された科目の割合は前期の44.9%に対して後期は55.8%と増加しており、リアルタイム型を中心とする傾向は後期により強くなっていたことが伺える。

5.2. オンラインツールの使用について

本学のオンライン授業では、授業実施のためのオンラインツールとしてミーティングツール「Zoom」とLMS「Google Classroom」が主に使用された。学生のアンケートにおいては、これらのツールがスムーズに使用できているかを毎回質問しており、図6～7はその結果をまとめたものである。

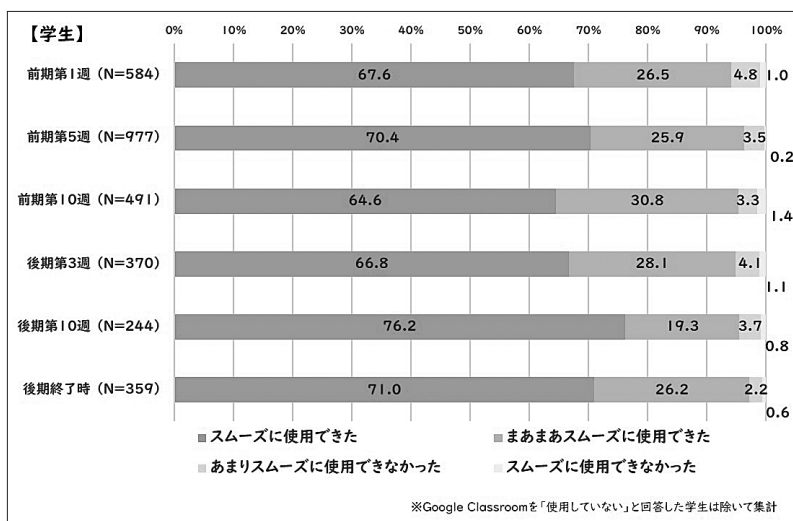
「スムーズに使用できた」「まあまあスムーズに使用できた」の合計を見ると、Zoom・Google Classroom いずれも前期第1週から9割を超えている。このことから、多くの学生が前期授業開始時から概ね問題なくオンラインツールを使用できていたことが分かり、授業開始前の期間を中心に行われていたツールの使用方法の講習等に一定の効果があったと言える。

図6 Zoomをスムーズに使用できたか(学生)



オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

図7 Google Classroom をスムーズに使用できたか (学生)



両ツールの結果を比較すると、特にオンライン授業が始まって日が浅い時期では「スムーズに使用できた」のスコアがZoomはGoogle Classroomより低くなっている。特定のタイミングでの操作が求められ、それが授業の円滑さにも直結するZoomの方が相対的にはスムーズに使用できていることを感じにくく、よりサポートも必要になると考えられる。

一方でZoomについては、「スムーズに使用できた」のスコアが前期第1週から前期第5週(44.5→54.4)、後期第3週から後期第10週(50.4→66.1)で大きく上がっており、学生たちは授業などで使用しながら習熟度を高めていったことが伺える。

教員にも、前期第3週のアンケートにて同様の質問を行った。図8の通り、Zoom・Google Classroom いずれも95%強の教員が「スムーズに使用できた」「まあまあスムーズに使用できた」と回答しており、こちらも授業開始前から行われていた講習会等の効果を見ることができた。

図8 オンラインツールをスムーズに使用できたか(教員/前期第3週)

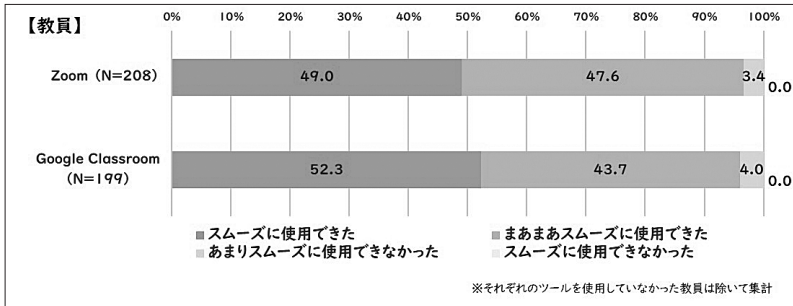
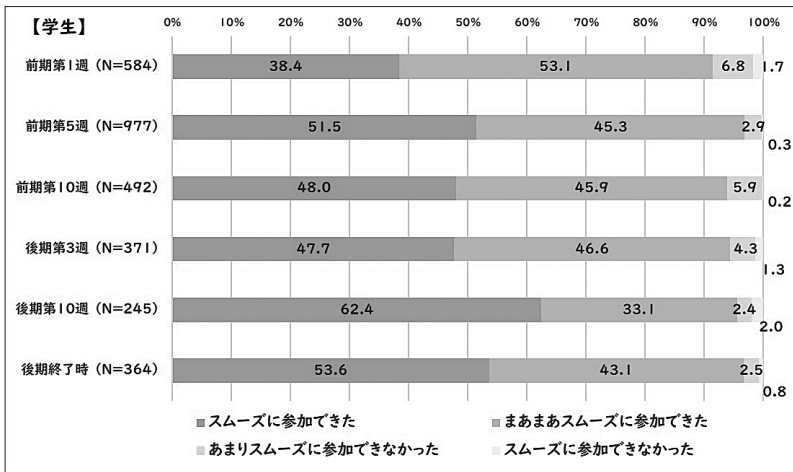


図9 オンライン授業にはスムーズに参加できたか(学生)

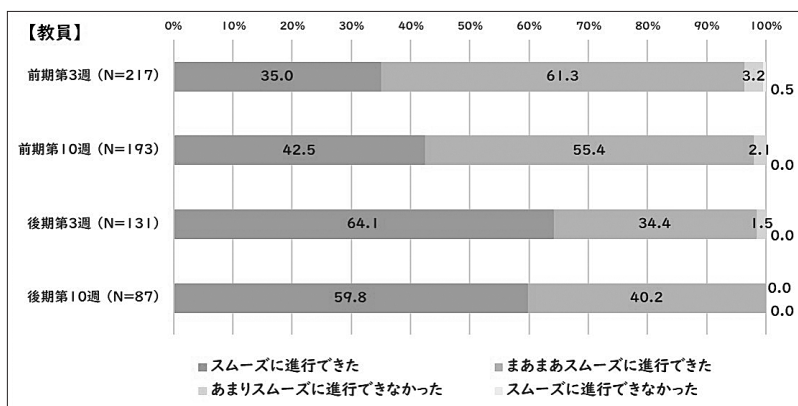


5.3. オンライン授業の参加・実施について

図9は、学生がオンライン授業にスムーズに参加できたかを毎回のアンケートで質問した結果である。「スムーズに参加できた」「まあまあスムーズに参加できた」の合計は前期第1週から9割を超えており、ほとんどの学生は前期授業の開始時から概ねスムーズに授業に参加できていたことが

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

図 10 オンライン授業はスムーズに進行できたか(教員)



分かる。

「スムーズに参加できた」のスコアを見ると、前期第1週から第5週(38.4→51.5)、後期第3週から第10週(47.7→62.4)でスコアが大きく上昇している。この傾向は先に示した図6(Zoomをスムーズに使用できたか)と類似しており、Zoomの操作への習熟がオンライン授業にスムーズに参加できたという実感につながっていることが推察される。

教員のアンケートでは、オンライン授業をスムーズに進行できたかについて定期的に質問を行った(図10)。「スムーズに進行できた」「まあまあスムーズに進行できた」の合計は前期第3週より95%を超えており、教員もオンライン授業開始当初より概ねスムーズに授業を実施できていたと言える。

また、「スムーズに進行できた」のスコアを見ると年度を通じて上昇傾向にあり、全学や個々の教員のFD等により、授業の運営の改善が継続的に行われていたことが分かる。

5.4. オンライン授業に対する評価

ここまでは、主にオンライン授業の参加・運営に関するアンケート結果を見てきた。本項では、そのように行われたオンライン授業を、教員・学

図11 担当授業における科目目的の達成度(教員)

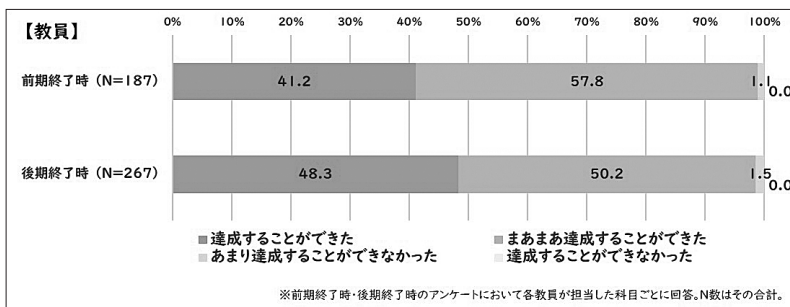
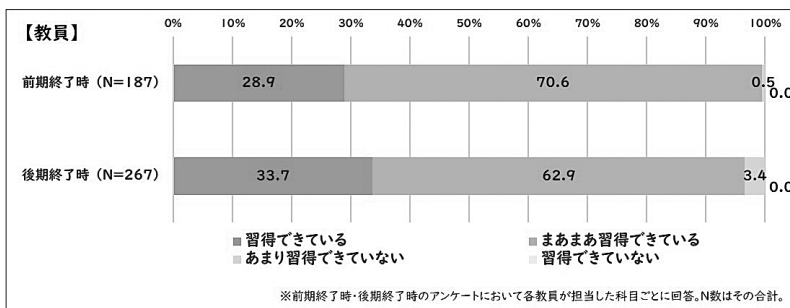


図12 担当授業における学生の習得度(教員)



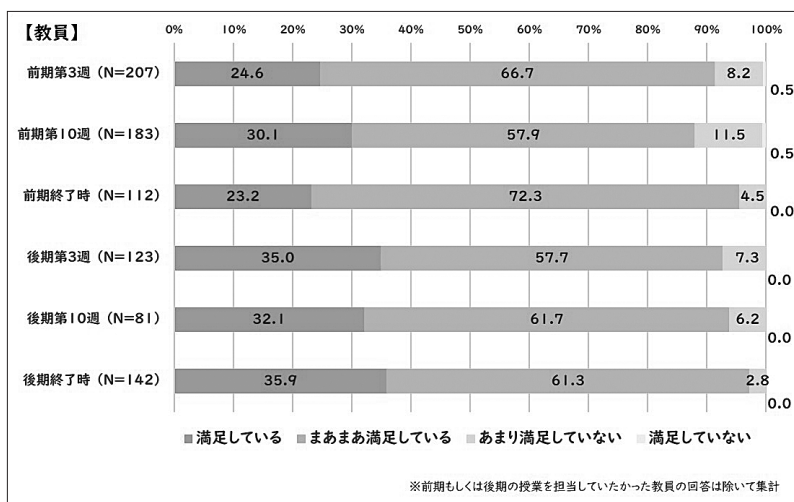
生それぞれがどのように評価していたかについて見ていく。

まず教員について見てみると、担当した授業における科目目的の達成度(図11)と学生の習得度(図12)は、前期・後期ともほとんどの教員が「達成することができた／習得できている」「まあまあ達成することができた／まあまあ習得できている」と回答しており、各教員がオンラインであっても担当授業の役割を概ね果たすことができたと感じていたことが分かる。

またその結果として、授業に対する教員としての満足度も、「満足している」「まあまあ満足している」と回答した教員の割合が年度を通じて9割

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

図 13 担当した授業全体の教員としての満足度



前後となっている (図 13)。

一方で学生のアンケート結果では、受講科目における習得度 (図 14)・満足度 (図 15) についてネガティブな 2 カテゴリーを回答した学生が年度を通じて 2 割前後いたことが分かる。

2019 年度までの対面授業時における同様のアンケート結果がないため、この割合が多いのかどうかを判断することは難しいが、年度を通じてスコアの改善があまり見られなかったことは課題の 1 つであった。

また図 16 は、オンライン授業の量 (内容や課題) について、各学生が受講している科目を総合して回答した結果である。前期と後期で選択肢の項目が変わっているが、「適切」が追加された後期であっても「多い」もしくは「やや多い」と回答した学生が約 70% となっている。

オンライン授業については「課題の量が多い」という不満が全国の大学で多く挙がっていたが、本学においても多くの学生が同様に感じていたことが分かる。

図14 受講科目における知識・スキル・考え方などの習得度(学生)

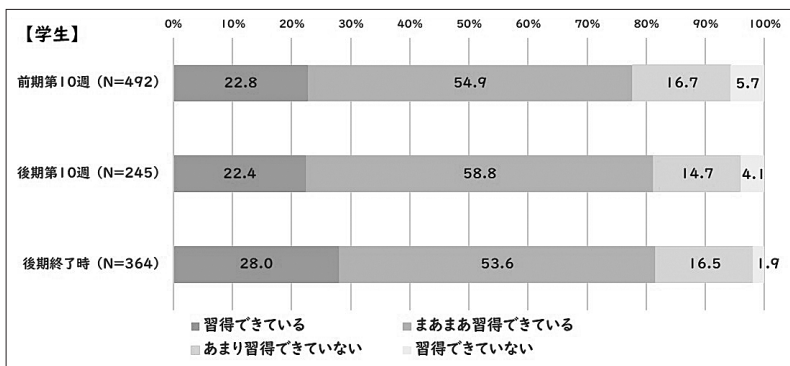
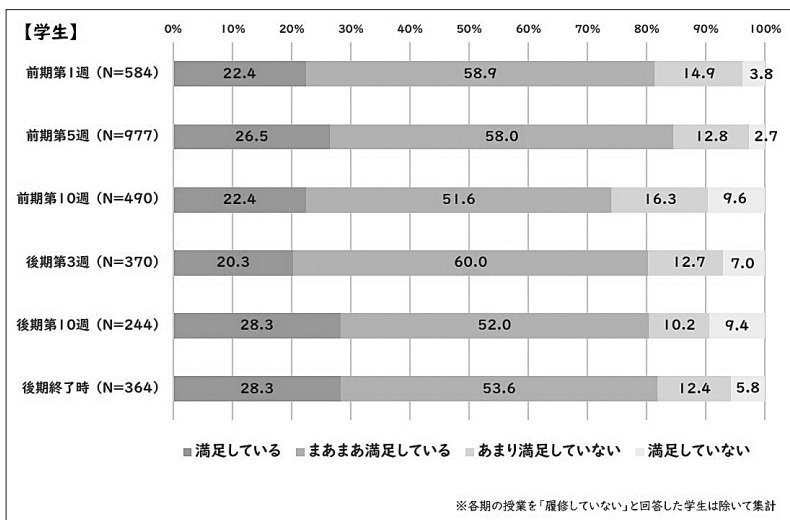
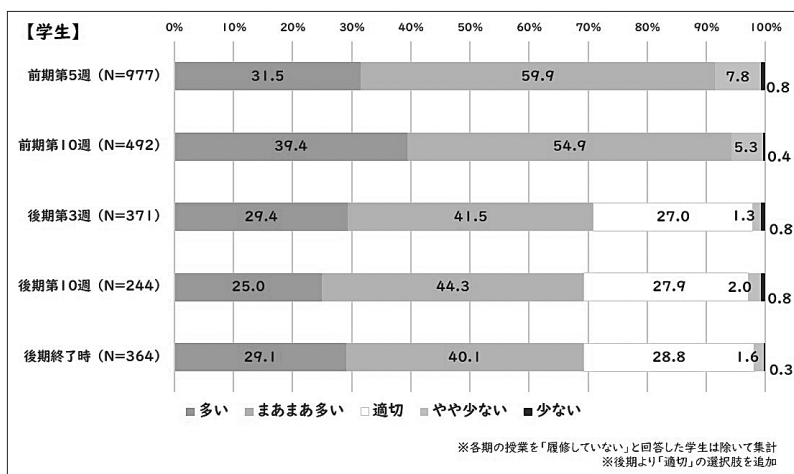


図15 履修したオンライン授業全体に対する満足度(学生)



オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

図 16 オンライン授業の量 (内容・課題等) について (学生)



参考：集計結果リンク集

表7 学生アンケート集計結果リンク一覧

前期第1週	https://docs.google.com/document/d/1dPnLNRfn-Tri_mIBTCH9GHtnLyNdd4uI081HJNY-Tw/edit?usp=sharing
前期第5週	https://docs.google.com/document/d/1tYW4hpRD1aLbEn1_4PZul01XvFGcxNUs8_HyWVNLMM/edit?usp=sharing
前期第10週	https://docs.google.com/document/d/1C9gf0GMHxIvJk4yKG8rypKCvGD68nTqgawh2Xa7rq18/edit?usp=sharing
後期第3週	https://docs.google.com/document/d/1pt7eV3Oohe_TfOmiJwlpSl6UHTeZPe5ATmcAN9SZm8/edit?usp=sharing
後期第10週	https://docs.google.com/document/d/1Fk9L2vvtmEZiXkeRI1Jcxj5dbYM83GAkG9AmKpObA04/edit?usp=sharing
後期終了時	https://docs.google.com/document/d/17kzHlw0ehGLUmxBzfULN6B128ASjYqyk3jrKP4tNu4/edit?usp=sharing

表8 教員アンケート集計結果リンク一覧

前期第3週	https://docs.google.com/document/d/1vVDxAtwHyc8WGifAr2hVtxIss_ fBK3TY5Fjbbg8o1Tg/edit?usp=sharing
前期第10週	https://docs.google.com/document/d/1aRhXe5MJ0WlPqGafGFqnmHJohALGIMBvdalKJ-Jqr-4/edit?usp=sharing
前期終了時	https://docs.google.com/document/d/1OrKxoDQnDdWjC8eljMCAFGfzQScbaD1-hTDKy8Wwh9c/edit?usp=sharing
後期第3週	https://docs.google.com/document/d/14yyoWp1HqTxO05SncC3XGu3pnfFE Tdld7oMTkSrZFxg/edit?usp=sharing
後期第10週	https://docs.google.com/document/d/16Z4A_ ktne5CSYHY90KPfxoLzNXjCmC6wDZbXRDR59pU/edit?usp=sharing
後期終了時	https://docs.google.com/document/d/1V82jTj pzDIQ_ ojKC0JkSmq9QOwj31hEAPBb6f6Rw8e0/edit?usp=sharing

(※) 教員アンケート集計結果はいずれも神田外語大学の教職員のみ閲覧可。以降 (※) をつけたドキュメントは同様。

6. オンライン授業に満足していなかった学生についての分析

前章の図15で示した通り、オンライン授業に対して「あまり満足していない」「満足していない」と回答した学生（以降、いずれかに回答した学生を「不満層」と呼ぶ）が年度を通じて2割前後おり、このスコアがあまり改善しなかったことは、2020年度の本学のオンライン授業における課題の1つであった。

本章では、そういったオンライン授業不満層の学生にはどういった特徴があったのかについて分析を行う。

6.1. オンライン授業不満層の特徴

オンライン授業不満層の特徴について、以下6つの仮説を立てた。

- ① 授業が全て対面で行われる学生生活を経験している2年生以上（以降「上級生」と呼ぶ）の割合が多い

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

- ②オンラインツール（本検証においてはZoomに着目する）をスムーズに使用できていない学生の割合が多い
- ③インターネット接続が良好ではない学生の割合が多い
- ④授業にスムーズに参加できていない学生の割合が多い
- ⑤授業における習得度実感が低い学生の割合が多い
- ⑥授業の量（内容・課題等）に対して不満を感じている学生の割合が多い

これらについて、後期終了時学生アンケートの不満層と満足層（満足している+まあまあ満足している）のスコアを比較することにより検証を行う。

まず図17は、仮説①の検証のため満足層と不満層それぞれの学年分布を比較したものである。それぞれの層の2～4年生をまとめた「上級生」の割合について χ 二乗検定を行ったところ、その χ 二乗値は4.15であった。優位水準5%における χ 二乗値3.84を上まわることから、不満層には上級生が多く含まれることが確認された。

続いて図18は②～⑤の検証である。いずれも仮説の通り、不満層ではオンラインツールの使用・インターネット接続状況・授業へのスムーズな参

図17 オンライン授業満足層・不満層の学年分布比較

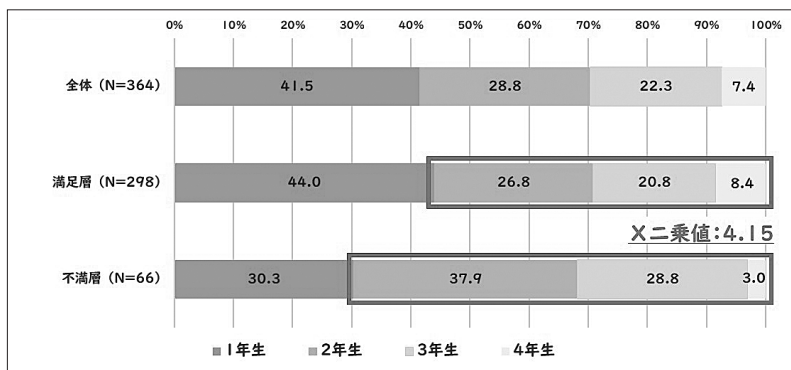
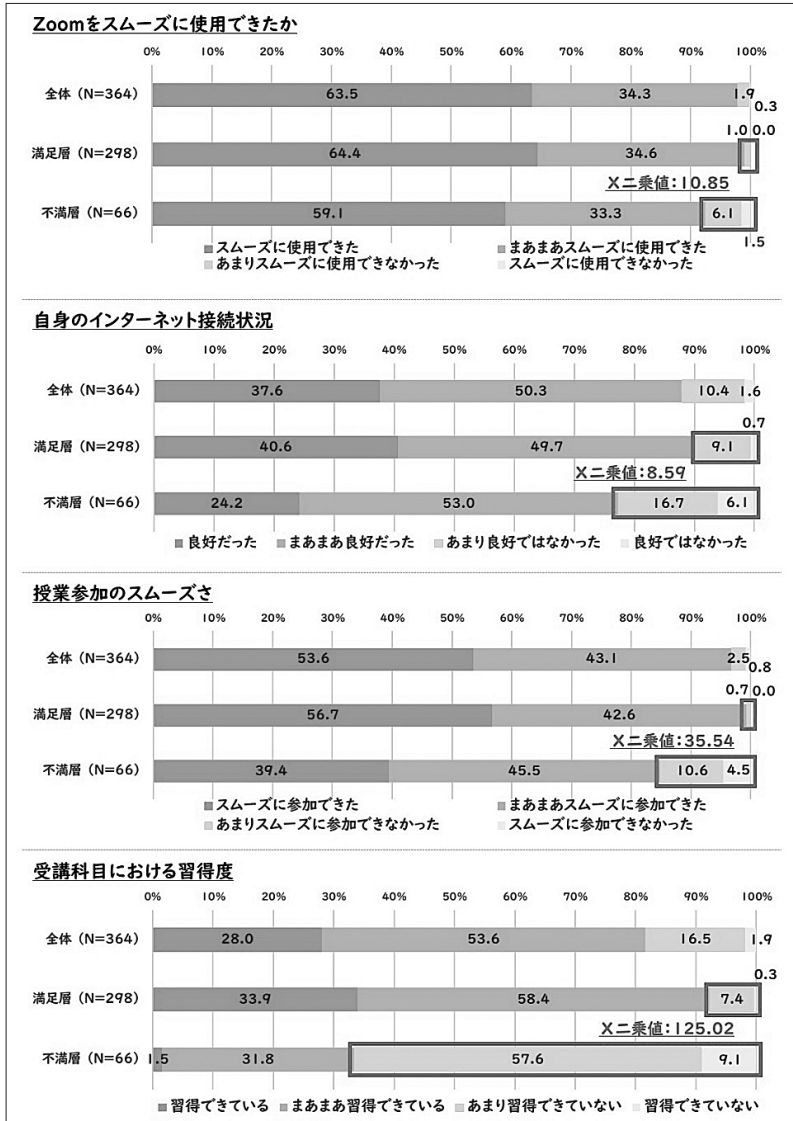


図 18 Zoomの使用・インターネット接続状況・授業参加・習得度実感についての満足層・不満層の比較



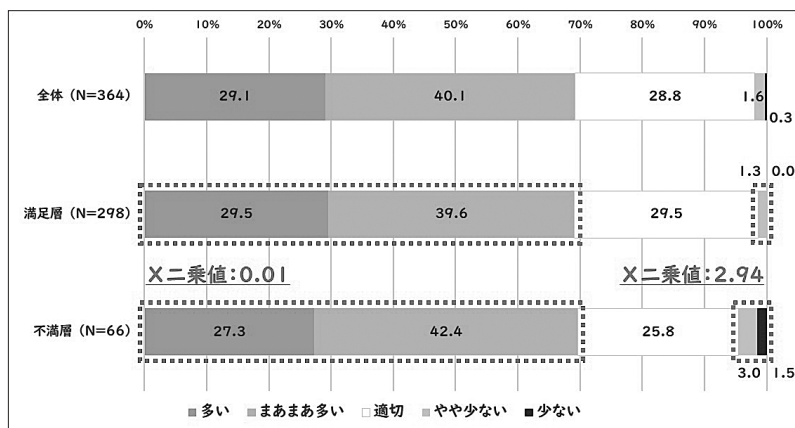
オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について加・習得度実感について難しさを感じている学生の割合が多いことが確認できた。

その中でも、習得度については不満層の66.7%が「あまり習得できていない」「習得できていない」と回答しており、満足層の7.7%と大きくギャップができています。前述の通り、2019年度までの対面授業時における同様のアンケート結果がないため、これがオンライン授業特有の事象であるかは分からないが、受講している科目の内容の習得が感じられないことがオンライン授業に対する不満の大きな要因になっていることは言える。

とりわけオンライン授業では分からないことがあった際に教員やクラスメイトに質問しにくい状況に陥りやすいことから、習得不足が解消しにくく、対面授業以上に授業に対する不満につながりやすい可能性は想定される。

図19は仮設⑥の検証結果である。ここでは、「多い+まあまあ多い」と「やや少ない+少ない」それぞれの比率について検定を行ったが、有意差は見られず、不満層の方が授業の量(内容・課題等)に対してより不満を感じているということにはなかった。

図19 満足層・不満層の授業の量(内容・課題等)に対する意識比較



6.2. 不満と結びつきやすい要素の改善状況

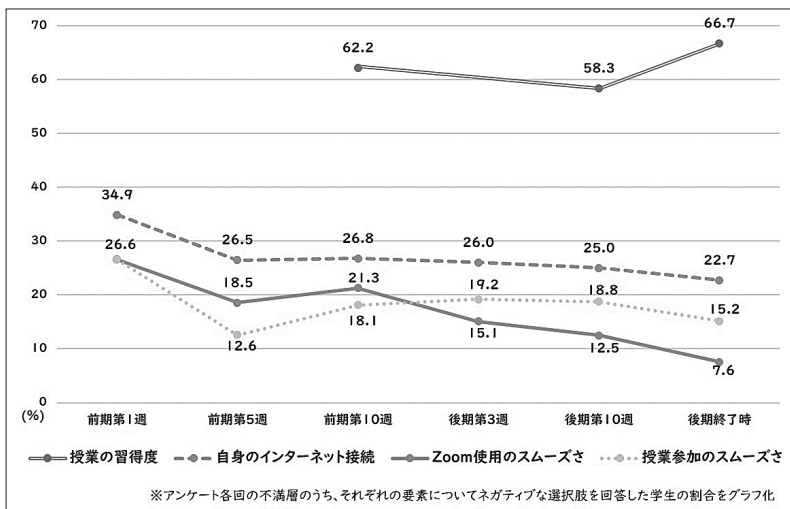
図18において、不満層では満足層と比べてオンラインツールの使用・インターネット接続状況・授業へのスムーズな参加・習得度実感に難しさを感じている学生の割合が多いことを把握した。これらはオンライン授業に対する不満と結びつきやすい要素であると考えられる。

本項では、これらの要素が年度内で改善されていたかどうかについて検証を行う。

図20は、上述の「不満と結びつきやすい」4つの要素について、学生アンケート各回の不満層のうちネガティブ寄りの2つの選択肢（例えば習得度であれば「あまり習得できていない」と「習得できていない」）を選んだ学生の割合をグラフ化したものである。

この中で「Zoom使用のスムーズさ」については、不満層の中でネガティブな回答をした学生の割合が前期第1週の26.6%から後期終了時の7.6%へと大きく改善している。また、「インターネット接続」「授業参加のスムーズさ」についても改善傾向が見られる。

図20 不満層における「不満と結びつきやすい要素」の改善状況



オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について「ズサ」についても、Zoom ほどではないものの年度を通じてゆるやかに改善傾向であったことが分かる。

一方で、不満層の中で「授業の習得度」についてネガティブな回答をした学生の割合は6割前後と高いスコアで留まっており、図15で示したオンライン授業全体に対する満足度で、不満層が年度を通して2割前後いたことの大きな要因だったのではないかと推測される。

7. アンケート結果をふまえた授業改善施策

本アンケートは主に「教育の質の継続的な維持・向上のための情報収集」を目的として行われていたことから、その結果をふまえて、様々な授業改善施策が主に参考情報の発信という形で行われた。

本章では、それらの取り組みを①集計結果・自由回答集の共有、②教員の参考となる情報のまとめ・共有、③学生サポート関連、④FD委員会からの情報発信の4つに分類して示す。

7.1. 集計結果・自由回答集の共有

上に示した各回アンケート（学生・教員）の集計結果と、自由記述設問で集まった回答の一覧は、各教員の授業改善や事務局各部署が学生・教員サポートを検討する際の参考としてももらうため、毎回全教職員に情報共有された。その際、教員に対しては全員が登録されているメーリングリストが、職員に対しては情報共有用ポータルサイト「desknet's」が使用された。

また学生に対しては、アンケート結果とそれに対する大学からのフィードバックの共有のため、学生版の結果のみ学生用ポータルサイト「CampusWeb」において共有された。

加えて、オンライン授業下における本学の教育の質の維持・向上のための取り組みを保護者や社会全体にも示すため、学生版の結果については大学ホームページでも公開された。（公開例：<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/112531/>）

表9 アンケート結果の共有方法

対象	共有方法
教員	教員用メーリングリスト
職員	情報共有用ポータルサイト「desknet's」
学生	学生用ポータルサイト「CampusWeb」(学生版のみ)
保護者・一般	大学ホームページ(学生版のみ)

7.2. 教員の参考となる情報のまとめ・共有

7.2.1. 学生からのコメント・要望のまとめと対応方法のアドバイス

本アンケートでは、毎回数問の自由回答設問が設けられた。中でも特に学生アンケートで集まる回答は、集計データだけでは把握しきれないオンライン授業の課題や、学生にとって必要なサポートをより詳細に把握するために有益であった。これらを授業の改善に資する形で有効活用するため、Innovation KUIS では前期第1週と後期終了時それぞれのアンケートに集まった学生の要望を整理し、その対応についてのアドバイスをまとめた資料「学生からのコメント・要望のまとめと対応方法のアドバイス」を発行した。(ドキュメントのリンクは表11参照)

この資料は、本学のオンライン授業の質向上の取り組みを学生・保護者・社会全体に対しても示すため、大学ホームページでも公開された。
(公開例：<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/129158/>)

7.2.2. ハイフレックス授業の Good Practice、要改善点のまとめ

後期からは一部の授業でハイフレックス授業が導入され、担当する教員にとっては初めての経験であったことから、前期のオンライン授業導入時と同様にノウハウや課題を迅速に把握・共有する必要があるあった。

そこで、後期第3週・第10週の教員アンケートではハイフレックス授業の Good Practice や改善が必要な点を収集するための質問が盛り込まれ、集まった情報は集計レポートとともに共有された。

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

7.2.3. 個々の教員が感じる課題に対する他の教員からのアドバイス

また、後期第3週の教員アンケートにおいては、個々の教員がオンライン授業について感じている課題を収集し、それを全教員に共有してアドバイスを募集した。集まったアドバイスは各教員に個別にフィードバックするとともに、その一覧を全教員に共有した。

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Wnnknyal0VSvh3NjjryL0MA5tXuXnqosLAROM7A1DXk/edit?usp=sharing> (※)

7.3. 学生サポート関連

7.3.1. オンライン授業に関する学生サポート情報の掲載

学生アンケートにおいて、オンライン授業用の機器・ツールの使い方や、自宅のインターネット環境に困っている学生が常に一定数いたことへの対応として、アンケート集計結果の公開時に「オンライン授業が受講できる大学施設の案内」「各種問い合わせ窓口」「学習支援サービスの紹介」などの情報を同時掲載することが行われた。(掲載例: <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/112531/>)

7.3.2. 2021年度新入生の円滑なオンライン授業受講のためのアイデア募集

本学は2021年度の方針として、語学系を中心とした約7割の授業は対面形式に戻し、講義系を中心とした残りの3割はオンライン形式を継続することを決定した。このため2021年度に入学する新入生に対しても、2020年度と同様にオンライン授業を円滑に受講できるようサポートを行うことが必要となった。

2020年度前期の授業開始前に行われていた講習等が効果的であったことはアンケート結果から把握できていたが、1年間の経験・知見をふまえて、新入生がより良いオンライン授業・学生生活のスタートをきれるよう、後期終了時の学生アンケートではオンライン授業に関する新入生サポート施策のアイデアを募集する質問が設けられた。そして、そこで集

まったアイデアは全教職員に共有された。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1DS_uiw1a19iB5pQvwVTNfjbRhEweNkUidbNxQpUHRfk/edit?usp=sharing (※)

7.4. FD委員会からの情報発信

ここまでに記載したものは Innovation KUIS からの情報発信であったが、アンケート結果を活用した情報発信は FD 委員会からも行われた。

7.4.1. Good Practice 集

前期終了時・後期終了時の教員アンケートにおいては、各教員が担当した授業において「スムーズな授業運営や学生の学びの促進のために行った工夫や改善、効果的だと感じた取り組み」を収集するための質問が設けられた。これは FD 委員会からの提案により盛り込まれたものであり、集まった情報は「Good Practice 集」として全教職員に共有された。

表 10 「Good Practice 集」リンク一覧

前期	https://docs.google.com/spreadsheets/d/1TfwzJt3lelFHz-4a-1B_Ju3-l88NjwRccz-YHoVbdOU/edit?usp=sharing
後期	https://docs.google.com/spreadsheets/d/1NIS9Z8Zy68MjHeYnz6KfmSVr6HPo1ahLu5XNN6YZSFE/edit?usp=sharing

(※) いずれも神田外語大学の教職員のみ閲覧可

7.4.2. 学生からのコメント・要望のまとめと対応方法のアドバイス

また、7.2.1 で紹介した「学生からのコメント・要望のまとめと対応方法のアドバイス」は、前期第 10 週の学生アンケートで集まった自由回答をもとに FD 委員会の視点でもまとめられ、全教職員に共有された。

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

表 11 「学生からのコメント・要望のまとめと対応方法のアドバイス」 リンク一覧

前期第 1 週 (Innovation KUIS)	https://docs.google.com/document/d/1dnGRSTCNCrbwDZm1IEb_C8sj_oH90p9elvMf6k-Ep_s/edit?usp=sharing
前期第 10 週 (FD 委員会)	https://docs.google.com/document/d/1QBZSH57s_3HkrHExsRzAxXZjd6b_9UEoAQZaeaT_2ig/edit?usp=sharing
後期終了時 (Innovation KUIS)	https://docs.google.com/document/d/1yiFG06jClFCmZ9FbpgBOXBUPZY0vyzL0oNwJ4-MrNMM/edit?usp=sharing

(※) いずれも神田外語大学の教職員のみ閲覧可

8. FD 委員会との連携

8.1. Innovation KUIS と FD 委員会の位置づけ

Innovation KUIS は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下におけるオンライン授業の迅速かつ円滑な導入・実施のため、特定の教職員で構成される緊急対応チームとして発足し、①教員のサポート、②学生のサポート、③アンケートの実施とそのフィードバック、④事務局を含めた全学的なデジタル対応を担った。

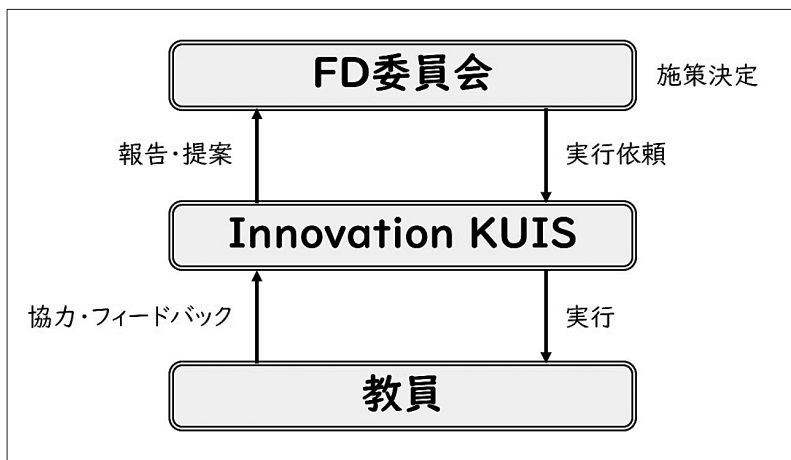
そのうち①と③は FD 活動として捉えることができる内容であったが、Innovation KUIS はその発足の性質上役割範囲や権限が明確でなく、FD についても 2020 年度は依頼・助言ベースのものにとどまり、確実な実行性を伴う全学的な活動とすることができなかった。

この課題を解消し、Innovation KUIS のアンケート活動を全学の FD 活動として適切に位置づけるため、2021 年度からは Innovation KUIS を FD 委員会の下部組織とすることが大学執行部会議・FD 委員会において承認された。これにより、FD 委員会は上記①・③の実施方針を決定し Innovation KUIS に依頼、Innovation KUIS はその依頼をうけて実行し、FD 委員会に報告するという体制となった(図 21)。

8.2. 2021 年度のアンケート継続実施

オンライン授業アンケートについては、授業に関するタイムリーな課題

図21 2021年度からのInnovation KUIS・FD委員会の位置づけと授業改善の実施体制



の発見や、意思決定のための情報収集における意義が認められ、上述の体制のもと2021年度も継続されることとなった。

ただし、前述の通り本学では2021年度より語学系を中心として約7割の授業を対面形式に戻すことが決まっていたため、それに伴う新たな授業形態や課題が発生することが想定されていた。そのためアンケートも、その対象をオンライン授業に限定せず、新たな授業形態における課題を発見し、迅速な改善につなげることを目的とすることとなった。

表12 2021年度授業アンケート実施概要

	前期第3週終了時
目的	2021年度に新たに生じる授業形態等(1～5)における課題を把握し、迅速な改善につなげる。 1. 感染防止対策をとりながらの対面授業 2. 教室でのオンライン授業(リアルタイム型)受講 3. ハイフレックス授業 4. 新入生のオンライン授業受講 5. 大学全体の感染防止対策

オンライン授業アンケートの実施と、その結果から見る本学のオンライン授業について

実施期間	2021年5月11日(火)～5月17日(月)
集計結果	学生: https://docs.google.com/document/d/1n2DNGn8RdzTksXaL_dn7PdXAij6k5iQG75kxfXO8SE/edit?usp=sharing 教員: https://docs.google.com/document/d/1C5av0i-QAAWHVmDB6jvE8HVwjyBMJGivHS9-oyFxyUE/edit?usp=sharing (※)
前期終了時	
目的	学生：授業形態ごとの満足度・習得度と、課題の把握 教員：授業形態ごとの課題の把握と、Good Practice の収集
実施期間	2021年8月5日(木)～8月22日(日)
集計結果	準備中
後期終了時	

9. 大学事務局から見た本アンケートの意義

本アンケートで、オンライン授業に関する学生・教員の状況や課題を把握したことは、適切なサポート・情報提供につながり、よりスムーズなオンライン授業の導入とその後の質向上の一助となった。

加えて、本アンケートにより、ファクトベースで全学的な授業改善が継続的に行われる実績が生まれたことは大きな収穫であった。授業に対する学生の意見を集めるという点では、これまでも個々の授業に対する学生からの評価を収集する「授業評価アンケート」は行われていたが、その結果をどのように活用するかは個々の教員に委ねられていた。今回の取り組みは、そういった個々の教員の努力だけでなく、全学的なFD活動としてもアンケート結果が活用される事例となった。

上述の通り、新型コロナウイルスの感染拡大状況や社会情勢の変化に伴い、2021年度本学ではまた新たな授業形態に対応することが必要となった。その状況において引き続き授業アンケートを行うことが決定されたことは、その有効性が認められ、新たな状況に対して事実をもとに全学で授業改善に臨むことが本学のFDの考え方の1つとして根づいたことの証左

だと考えられる。

また、本プロジェクトは教職協働で行われたことから、今後授業だけでなく大学運営の様々な面においても、同様の考え方がとられることが期待される。